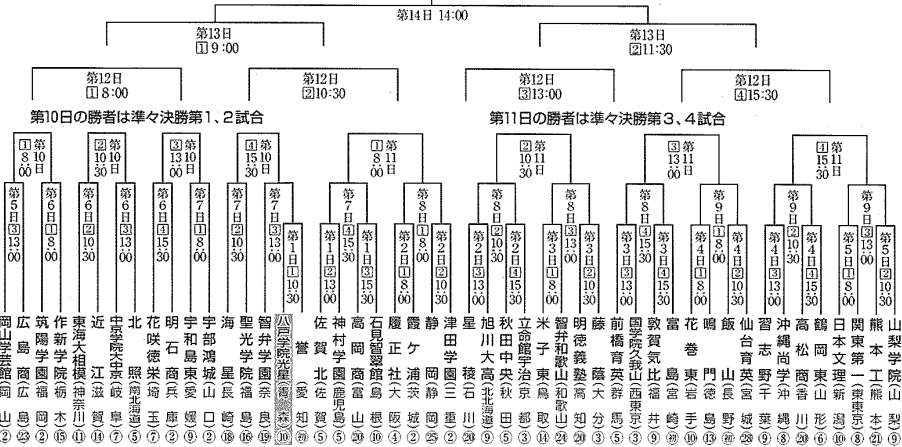


組み合わせ抽選会=3日

第101回全国高校野球選手権大会組み合わせ



左が一塁側ベンチ。準々決勝、準決勝の抽選は3回戦、準々決勝終了直後に進行。丸数字は出場回数、四角数字は抽選順。

開幕試合での初戦が決まり、驚いた様子の八学光星ナイン=3日、大阪市



全国高校野球組み合わせ抽選 光星開幕試合に驚き

6日兵庫県西宮市の阪が3日、大阪府のフエナを連続10回の出場を引いた。開幕試合を引き当りた。抽選会は午後4時から行われ、光星は大会第1試合の10日(北)の抽選で、宮崎で開幕する。抽選は事前に行われ、抽選は抽選会当日の抽選で決まる。

「ふさわしい試合を」 ナイン、気を引き締め

〇…令和初の甲子園開幕試合という記念すべき一戦を、初戦として迎えることになった八学光星。選手らは抽選結果に驚きの表情を浮かべつつ、目前に迫った試合に気を引き締めた。武岡龍世主将がくじの番号を発表した瞬間、観客席で見守るナインからは「えっ、開幕戦!?!」との声があふれた。

抽選会を見て来そうな感じがした」と振り返った仲井宗基監督。打線の中軸を担う近藤達也も苦しいながらも、「開幕にふさわしい試合をできれば」と気を入れ直した。投打での活躍が期待される下山昂大は「最後の甲子園。一日でも長くこのメンバーと野球がしたい。100パーセントの力を出して勝ち切る」と息巻いた。

誉開幕試合を歓迎 光星主将「春の経験大きい」

〇…敵地の愛知を制した。八学光星は春の選抜大会にも出場。武岡主将は「甲子園は独特の雰囲気がある。経験しているのは大きかった」と観戦が「きい」と落着いた様子で予想される愛知を歓迎し話した。

粘り強い戦い、強豪次々下す

光星の初戦、誉(愛知)に試合の流れを引き寄せて逆転につけてきた。打線は近藤達也、吉田昂矢、林山昂樹の中軸に長打力がある。近藤は高校選抜本塁打をマークする大型の遊撃手。吉田は愛知大会1回戦で堂下大進相手に逆転の2点本塁打を放つなど勝負強さが光る。中京大と対する準決勝では、相手投手安打を下回りながらも、好機を確実に変えて勝利をつかんだ。

誉は譽を通じて初の甲子園出場。全国最多の188チームが参加した愛知大会で、優勝校を次々に下し、ノードから8試合を勝ち上がった。昨夏の代表候補だった堂下大進と、中京大と対する準決勝で、粘り強い試合運びが特徴。制球力が持ち味の、100%前後の速球にスライダーを織り交ぜる左腕・杉本恭一と、100%台半ばの直球で押す右腕・山口裕生の兼投が、投手陣を中心守備からリズムをつくる粘り強い戦い、徐々に

八学光星・武岡龍世主将 開幕戦は思い定めておろそかにしないため、早く試合をやりたい。早く分たのすべく、自分の特長である粘り強い守備、打撃を本番まで残して、相手投手を苦しめて、八学光星は粘り強い試合運び、実力を試した。今度こそ、自分を試すべく、自分たちの野球を貫く。

しっかりと対策を。八学光星、仲井宗基監督 抽選会に向けてコンテイングを整えるのは簡単ではない。朝方緊張感もあつた。備えておかない。八学光星は強豪校といえる。初回に全試合も、次回につながるチャンスをつかむ。これから対策を練りたい。

上がった。〇…第4日の第3試合、神城高学と戦った。4抽の明石(兵庫)は花塚徳来が、5抽、強打を誇る東海大相模(神奈川)は好投手の林俊樹(愛知)と対戦する。開会式は午前9時、甲子園で行う。選手層は、今春の林山昂樹主将が務め、林泰輔(林泰輔)